

<ジブチ事業> 『『アフリカ子どもの日』に、子どもの権利について学ぶイベントを開催』

ICAN 日本事務局
雨宮 身佳
～プロフィール～
大学院修士課程修了後、開発コンサルティング企業で JICA 技術協力プロジェクト管理業務、青年海外協力隊等を経て、2020年8月より現職。

アイキャンのジブチの活動は、ジブチ北部のオボック市にある、イエメン難民が暮らすマルカジ難民キャンプで、2016年から始まりました。難民が安心して暮らすには、ホストコミュニティ（難民を受け入れている地域のコミュニティ）との良好な関係構築も重要になりますが、活動開始以来、両者の日常的な交流はありませんでした。そこで、6月16日「アフリカ子どもの日」に、ジブチ人の子どもとイエメン難民の子どもを対象に、「子どもの権利」について学び、絵を描き発表する交流イベントを開催することを決めました。「アフリカ子どもの日」とは、南アフリカ共和国でアパルトヘイト（人種隔離政策）が実施されていた時代に、学校教育で使用される言語をめぐる、教育のために立ち上がった子どもたちを忘れないようにするため、1991年に定められたものです。

イベント開催に向け、子どもたちが「子どもの権利」について学びを深めてから絵を完成させるために、2日間の準備期間を設けました。一見大人でも難しそうな「子どもの権利」というテーマは、子どもたちにとって難しすぎるのではないかと懸念もありましたが、現地スタッフが、「アフリカ子どもの日」や「子どもの権利」について具体例を用いて丁寧に説明したり、歌を歌ったり寸劇をする等の様々なアイデアを子どもたちと出し合い、子どもたちが表現しやすい方法で発表できるよう、声掛けを工夫してくれました。準備期間中、「発表のための準備時間が足りないから、もっと準備をしたい。」等の要望が出たり、「明日はアフリカ子どもの日なんだよ。僕たちは明日人種差別について発表するよ!」とスタッフに声をかけてくれる子もいました。イベント当日は、発表を真剣に聞く様子や、前日に用意した発表内容の紙を持ちながら、自分たちで描いた絵について「肌の色が違うだけで人種差別をしてはいけない」と発表したり、歌や寸劇を交えながら「子どもへの暴力禁止」を訴える等、子どもたち自身の学びたい・伝えたい気持ちが見られた有意義な発表となりました。

このイベントを通じて、子どもたちは「子どもの権利」について学ぶだけでなく、自分の意見を述べることや表現することの楽しさを学ぶことができました。イベント開催にあたって協力していただいたオボック市の市長からも、今後もオボック市とマルカジ難民キャンプの子どもたちが交流できるイベントを開催してほしいと前向きなコメントをいただくことができました。これまで、アイキャンでは難民キャンプの子どもたちへの活動を主に行なってきましたが、ジブチ人の子どもたちも難民の子どもたちも等しく「子どもの権利」を享受するために、ジブチ人の子どもたちに対しても活動を行なう必要性を感じました。今回のイベントをきっかけに、ジブチ人の子どもたちと難民の子どもたちがさらに交流を深められるような活動を継続していきます。

**フィリピン事業**

6月18日/サンマテオ（フィリピン）

新しく4名を「子どもの家」に迎えました

6月18日に、政府運営の児童養護施設より、4名の子どもが「子どもの家」に入所し、「子どもの家」の子ども数は合計18名になりました。ジュン君（仮名、男の子、11歳）は、「今は新型コロナウイルスの影響で学校に通えないけど、学校に行けるようになったら、新しい友達を作るのが楽しみです。」と、わくわくした様子で話してくれました。

フィリピン事業

6月/トンド（フィリピン）

感染対策をして給食活動を継続しています

マニラで最も貧しいと言われるトンド地区において、新型コロナウイルスの対策を講じながら、地域ボランティアの参加のもと、給食活動を実施しています。参加した子どもからは、「給食はとても美味しいです。家だと野菜やお肉をあまり食べないけど、給食にはおかずがたくさんあって嬉しいです。」等の感想が聞かれました。

国内事業（長野・自然災害）

6月/長野（日本）

写真洗浄活動の進捗状況を報告します

長野県社会福祉協議会及び長野市の福祉事業所と連携して実施している写真洗浄活動では、6月末時点で、被災された住民の方々からお預かりしていた62件（約30,000枚）の写真のうち、30件（約12,000枚）の洗浄及び返却が完了しています。作業はボランティアの方々にもご協力いただいております。7月も活動を継続いたします。

能力強化事業（NGO相談員）

6月25日/名古屋（日本）

SDGsに関する講習会を実施

ヒューマンキャンパス高校の教員3名に対して、「身近な取り組み例から考えるSDGs」というテーマで講習会を実施しました。参加された教員は、後日、生徒に対してSDGsに関する授業を行う予定であり、授業内で想定される生徒からの質問に対する回答例など、具体的な質問をいただくとともに、「今後の授業で活かしていきたい」との声をいただきました。